

令和2年度 学校評価報告

草加市立花栗南小学校
(令和3年2月1日作成)

1 学校教育目標	
○考える子 ・夢や志が持てる子 ・自ら学び、自ら考える子 ・最後まで粘り強くやり抜く子 ○思いやりのある子 ・自分と仲間を大切にす子 ・正しく行動のできる子 ・お互いの良さを認め合える子 ○体をきたえる子 ・健康や安全に関心をもてる子 ・自ら進んで体をきたえる子 ・楽しく運動に取り組む子	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
1 一人ひとりの個に応じた教育を推進と確かな学力と生きる力の育成 2 心潤う生徒指導による豊かな心の育成 3 人権を大切にす教育の推進 4 体育的活動の充実と体力の向上の推進 5 安全・安心で美しく潤いのある教育環境の整備 6 地域との連携の強い本校の特色を継承した、地域から愛され信頼を深める特色ある学校づくりの推進	成果 ○学校、地域が一体となった、あいさつ運動を継続することで、地域への愛着が醸成された。 課題 ●花南スタイルのさらなる深化を図り、意欲的に取り組む児童の育成を図る。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	B	○職員会議や打合せで共通理解・共通行動を図り、全職員一丸となり教育活動を実施できた。 ○各教科等への予算配分が適切に執行できた。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	A	○3大じまん(あいさつ・読書・そうじ)の取組に関する研究を行った。 ○キャリア教育に視点を広げた読書活動を研究することができた。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	B	○安全確保のため日常的な点検等、適正な対応により、安全・安心な学校づくりができた。 ○学校全体で感染症等への対策が適切に講じられた。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	B	○校内個人情報管理規定、校内情報機器等の管理運営規定に従い、情報を適切に管理することができた。 ●今後も施設の老朽化に対する速やかな修繕の対応が必要である。
	⑤地域との連携開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	B	○学校運営協議会が定期的に関われ、地域との連携体制が整ってきている。 ●コロナ禍で行えなかった取組を来年度に引き継ぐ必要がある。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	○花栗中学校の教員による算数と体育の乗り入れ授業を行い、児童理解を図った。 ●コロナ禍のような状況下でもできる連携の在り方について検討する必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○行事の精選や業前活動の工夫等により、授業時数を確保することができた。 ●PDCAサイクルに基づき、学校全体の課題点を改善し、指導の充実を図る。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各種学力状況調査の結果においても児童の学力の定着を確認することができた。 ○花南スタイルの継承やICTを活用した指導法について研修を行い、共通理解を図った。 ●対話的で深い学びの充実を図る。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の時間や他の教育活動において、全体計画に基づき全職員で道徳的実践力の育成に努めることができた。 ●評価方法等について研修し、道徳教育をさらに充実させる。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的にALTを活用し、児童の外国語活動への意欲向上を図ることができた。 ●計画的な研修により、さらなる教員の指導力の向上を図る。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○本年度の重点として、3大じまん（あいさつ・読書・そうじ）に関する学級活動の授業を行い、主体的な活動を充実させることができた。 ●児童の自主性や自己肯定感・自己有用感を育むための指導の充実をより一層図っていく。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が興味関心に応じて学習を主体的に進め、学習活動が充実した。 ●児童の実態に応じた指導計画や内容の精選を行うなど、学年間で系統的な指導改善を行う必要がある。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導上の問題に対して組織で対応にあたることができた。 ●今後も組織でいじめや不登校の早期発見・早期解決を図っていく。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○将来の自分の在り方を考える読書活動の研究授業を行い、キャリア教育の研鑽に努めた。 ●系統的なキャリア教育を推進する。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画を基にした教育活動を実施できた。 ●外部機関と連携を図り、児童一人ひとりの支援をさらに充実させる。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ビブリオバトルの取組が読書の質を高める活動となり、読書への関心をさらに高めた。 ●継続的な取組になるよう、研修を深めていく必要がある。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットや電子黒板などの機器を活用した授業を行う頻度が上がっている。 ●児童の情報モラルに係る意識の向上を図る。
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校再開に向け、校内研修を実施し、全職員で人権意識を高める取組についての共通理解を図った。 ○人権作文、標語など学校全体で取り組むことができた。 	

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	知育 (考える子)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導法の工夫改善 ・家庭との連携 ・朝の学習タイム 	A	<p>○各種学力状況調査の結果においても児童の学力の定着を確認することができた。</p> <p>○朝の学習タイムを活用し、学習内容の定着を図った。</p> <p>○家庭学習がんばりウィークの取組を行うなど、家庭学習について啓発し、充実を図った。</p> <p>●花南スタイルの継承及びICTを活用した指導法についてさらに研究を深めていく。</p>
	徳育 (思いやりのある子)	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・読書 ・掃除 	A	<p>○「3大じまん」の具現化を目指し、全教育活動において組織を挙げて取り組んだ。また読書活動を通して情操教育の推進を図ることができた。</p> <p>●校外においても自分からあいさつができる児童の育成を全校共通の目標とし、取り組む必要がある。</p>
	体育 (体を鍛える子)	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上 	B	<p>○朝体育など、学校全体として体力の向上を図り、体力テストの結果が県平均を大きく上回ることができた。</p> <p>●コロナ禍における体力の向上について検討する必要がある。</p>

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

・「あいさつ」、「読書」、「そうじ」の3大じまんで児童・教職員全員で理解し実践することにより、児童の向上意識を醸成することができた。

・地域の方々の協力やPTA及び関係機関との連携によって、安心して安全な学校づくりを推進することができた。

・年度当初は臨時休業であったが、家庭の協力を得て、高い学力を維持することができた。

・運動会の代替行事として学年スポーツ大会を実施し、体力の向上と身体を動かす楽しさを育むことができた。

・積極的で組織的な生徒指導を実践し、迅速な対応を心がけ、早期発見・早期対応に努めた。

・スクールソーシャルワーカーを交えた生徒指導委員会が定期的に関わり、生徒指導上の諸問題に組織で対応することができた。

・特別な支援が必要な児童への対応について、家庭とも連携を図りながら、教育支援室や県立草加かがやき特別支援学校のセンター的機能等を活用し、支援体制を充実させることができた。

・教育相談活動を定期的・組織的に行い、支援を要する児童を早めに全職員でサポートしていく体制の強化を図ることができた。

6 次年度の改善策

・研究を深めてきた花南スタイルの共通理解及び、さらなる深化を図り、「学び合い」により、意欲的に取り組む児童の育成を図る。

・児童1人1台のタブレットを活用した指導について研究を深める必要がある。

・幼保小中一貫教育に向けてさらなる連携の強化、教員の共通認識を図りながら、研究を進めていく。

・学校行事を精選し、より効果的な教育活動を行っていく必要がある。